

## 文化

主婦が20年かけ  
個人誌150号達成

日本山岳会道支部自然保護委員長を務める主婦樋口みな子さん(五〇)写真、江別市野幌若葉町Ⅱが、隔月で発行している個人誌「銀河通信」が五月二十五日付号で一五〇号に達した。一九八八年七月創刊から二十年続いたことになる。

銀河通信は、A4判八ページ。子育てのエピソードなど家族の話題をつづった通信を二十部ほど作って友人や知

人に配ったのが始まりで、その後「長男が成長して家庭内のことを書かれるのを嫌がるようになり、目を環境や平和問題などに転じるようになった」という。

現在は登山の山行報告と、趣味の読書、映画鑑賞を生かした評論が記事の大きな柱。年間購読料千円で百八十人に郵送しているほか、メールで無料配信している読者も約八十人いる。

一五〇号には、日本山岳会が四月から五月にかけて実施したヒマラヤ環境調査隊に参加しての体験記を掲載した。樋口さんは「気候温暖化で氷河湖決壊の危険が増しているにもかかわらず、現地の村人はどの人も『神様が守ってくれる』と口をそろえたのには驚いた」と話している。「次の目標は一八〇号。さらに内容を深めたい」とも。



目標は一八〇号。さらに内容を深めたい」とも。